

2014/03/1?

2013 年度卒業式

「贈る言葉」

公立大学法人山梨県立大学長

伊藤 洋

今日、ここに山梨県知事代理平出 亘^{わたる} 副知事をはじめ山梨県内各界各層のご来賓のみなさまにご列席を賜り、公立大学法人山梨県立大学・国際政策学部卒業生 88 名、人間福祉学部卒業生 89 名、看護学部卒業生 96 名、以上学部卒業生 273 名、さらに大学院看護学研究科修士課程修了生 6 名の皆さんに、学位記を授与できることを、心からうれしく思います。また、みなさんを今日まで支援してこられたご家族・ご親族の皆さん、また本学常勤・非常勤の教職員および特任教員あるいは本学との協働事業にご支援くださった実に多くの関係者、加えて学外実習・インターンシップ・地域づくりなどの現場でご指導を賜った数え切れない多くの県民のみなさんに併せて心からお礼を申し上げたいと思います。

さて、皆さんは、時あたかも 20 世紀末の 1990 年代に始まった日本経済の下降のはじまりと軌を一にしてこの世に生を享け、今日より明日が確実に減退するという体験を持った稀有な世代であります。皆さんのご家族では、お父さんやお母さんはいわゆる団塊の世代かまたはその前後、おじいさん、おばあさんは 15 年戦争の戦中に青春時代を送る不運を経験したものの、物心ついた時には復興期に入っていた。つまりおじいさん夫妻もお父さん夫妻も右肩上がりの時代に生きた人たちばかりでした。そういう中であって皆さんだけが実に稀有な時代に生を受け成長して今日を迎えた人々です。

それだけに、皆さんは、以前の時代の人々とは一味違う存在であったのだろうと思います。それが証拠に、みなさんの 4、5 年先輩にあたる 2000

年に中・高生だった人たちに「21世紀への夢や希望」を調査した国際比較調査が残っています。中国・韓国・アメリカに日本の生徒たちに同一の設問票で回答を求め、比較したものです。

たとえば、「人類にとって21世紀は希望のある社会になる」という設問について、中国の89.0%、アメリカの63.5%、低い韓国ですら63.2%が賛意を示したのに対して、日本の生徒たちは34.3%しか同感しないで最低値を記録する。

また、「今より世界は平和になるだろう」という問いに対しては、中国の70.3%、韓国の43.2%、低い米国の35.2%の賛意に対してもなお低い31.0%しか賛意を示していません。

同様に、「国民生活が今より良くなるだろう」という見通しについては実に極端で、中国の84.8%、アメリカの77.0%の高率に対して、低い韓国の54.5%と比べてもなお半分に近い29.0%と4か国中最低の同意ぶりです。

このように、すでに西暦2000年の時点において日本の中高生は未来に向かって夢を描くという態度を示していませんでした。

Youth is not a time of life —— it is a state of mind; No body grows only by merely living a number of years; peoples grow old only by deserting their ideals. (青春とは人生のある期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、怯懦を退ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、こう言う様相を青春と言うのだ。年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。)

これはアメリカアラバマ州出身の無名の詩人サミュエル・ウルマンという人の作品で、岡田義夫さんという人の翻訳で読みました。実は、1945年9月27日、あの歴史に残る昭和天皇とマッカーサー連合軍最高司令官の会見の折、マッカーサー将軍の執務室に掲げられてあった詩の一節だそうです。「Peoples grow old only by deserting their

ideals. (理想を失う時に初めて老いがくる。) マッカーサー元帥にとってそうありたいという思いが額縁に入れて飾らせたのかもしれませんが。また、昭和天皇がこれをどう読まれたのかは伝わっておりません。

話が脱線しました。夢の話に戻しましょう。いつの時代でも夢を見ること、できるだけ良い夢を見ること、これは古来人々の永遠の願いです。

北条政子と言えば鎌倉将軍源頼朝の妻で尼将軍の名を欲しいままにした権謀術数の女傑です。その政子がまだ初々しい乙女時代の話ですが、ある日のこと、彼女の妹姫が夢を見ました。その夢は、「高い山に登り、太陽と月を左右のたもとに入れ、蜜柑の実が三つついた枝を髪に挿した」という実にスケールの大きいものでした。月と太陽を独占するというのですから、こういう夢を吉夢と書いて「きつむ」と読みます。つまり、開運の夢なのです。ところが、妹姫はこれが大吉だとは知らなかった。そこで、姉の政子は、「この夢はお前にとって災いの兆候だから、人に売ってしまった方がよい。そして他に口外してはならない。」こと、加えて「姉の私が犠牲になってこの夢を買い取ってあげよう。」親切ごかしにこう言って代々北条家に伝わる中国渡来の鏡と唐綾の小袖を与えて、妹の夢を買い取ってしまいました。この買い取った夢が功を奏したのでしょうか。政子は一介の田舎豪族の小娘からなんと天下の征夷大将軍源頼朝の北の方になるという玉の輿に乗った話が『曾我物語』に書かれています。

これは、女性の話ですが、男子でも同じような話が『宇治拾遺物語』にあります。吉備真備といえば奈良時代の学者・文化人で大政治家。黍団子のふるさと岡山県吉備郡の地方豪族の低い身分の出自ながら聖武天皇・光明皇后夫妻に重用され、藤原氏にあらざるば人にあらざる藤原全盛の時代にあつてなんと右大臣にまで上り詰めた立志伝中の人物です。

この人がまだ若かった頃の話です。近くに夢の吉兆を占う夢解き名人が住んでおりました。ある日のこと真備がそこへ行って話をしていると、国司の御曹司が供の者を大勢引き連れてやってきました。御曹司はタベ見た夢の吉凶を占ってもらいにこの夢解き女の家に来たのでした。真備は別室に隠れてその様子を盗み見しました。夢解きは「大変良い夢です。あなたは今やゆくゆく大臣にまでなるでしょう」と告げました。御曹司は喜んで着て

きた絹の着物を脱いで夢見に与え、意気揚々と帰って行きました。

隣室に隠れて一部始終を見ていた真備はこの夢を全部戴こうと考えました。そこで夢解きに「あの御曹司は国司の息子、4年もすれば都に帰ってしまう。仮に、彼が大臣になってもこの地にもお前にも何の益も無い。私は郡司の息子で生まれも育ちも吉備の人間。私が大臣になればこの地もお前も良いことだらけではないか」と懇々と説諭しました。夢解きは「なるほど、それではあなたが隣の部屋で聞いていたとおりに話してみなさい」。真備は今聞いたばかりの御曹司の夢を自分が見たように語敵ませると夢解きは「大変良い夢です。あなたはゆくゆく大臣にまでなるでしょう」と夢を解きましたので、真備は喜んで着てきた着物を与えて帰りました。その後、彼は遣唐使に随行する官吏の登用試験に合格、阿倍仲麻呂らと共に入唐して、当時の先端的知識や技術を習得して帰国。政府の要人としてめきめき出世。右大臣にまで登りつめ隆々の生涯を終えました。

他方、かの国司の御曹司は、せっかくの夢を奪われて鳴かず飛ばずの人生を終えたようで歴史年表のどこにもその名が見えません。

見た夢は他人に盗られないようにすること。これがこの話の教訓なのですが、良い夢が見られない人にとっても他人の夢を失敬することで良い人生が開けること。尼將軍政子の例と同様これも立派な教訓です。以上を要するに、何がなんでも夢を見ること、未来に向かって希望をつなぐこと、これが豊かな人生を実現する道であると、これらの昔話は何百年にわたって語り伝えてきたのであります。

たしかに、今日、多くの社会科学的指標が単調に減少する時代位相にあります。そういう時代に生を受けたみなさんにとって、夢を見ることは言うほど簡単ではありません。なればこそなおさら未来に夢を架橋することが実に必要なことなのです。

最後に、先ほどご紹介したサミュエル・ウルマンの詩『青春』の中の一節を紹介し、皆さんの夢がますます膨らむことを祈念して、私の贈る言葉としたいと思います。

「人は信念と共に若く 疑惑と共に老ゆる

人は自信と共に若く 恐怖と共に老ゆる
希望ある限り若く 失望と共に老い朽ちる
大地より神より人より、美と喜悦、勇氣と壮大、偉力と靈感を受ける限り、
人の若さは失われない。」
ご清聴ありがとうございました。